



FRIENDS

帰国生 海外赴任サポート

第84号 2025年6月1日発行

フレンズだより



がんばる帰国生シリーズ

「『帰国子女』というレッテル」より

西アフリカのローカルマーケットの写真

CONTENTS

P2-3 寄稿 「トコロ変われば。。。国による習慣・価値観の違いについて」

*お誕生日 ドイツ在住 R.G.

*エコライフ 米国在住（現：日本）M.A

P4-5 がんばる帰国生シリーズ 「『帰国子女』というレッテル」

フレンズスタッフ A.N

P6-7 学校案内制作現場から 第3回 「私立～附属校～」

P8-10 特集 「大人も参加！子どもと一緒に楽しむ海外での行事」

P11 活動報告

P12 学校案内／スタッフ募集／編集後記

トコロ変われば。。

文化や習慣は渦中にいるとその珍しさには気がつきにくいもの。旅行や海外生活を送る中でそれらの一端に触れるのは楽しいものです。今回は、国際結婚カップルの視点をお借りし、日本では馴染みが薄い海外の習慣・価値観について紹介していただきました。

お誕生日

ドイツに30年近く住んでいて日本と違うことで驚いた習慣の一つが誕生日だ。この国では子供だけでなく大人になっても誕生日は特別な日のようだ。幼稚園では我が子の誕生日には親がクラス全員分のカップケーキなどを焼いて持っていく。そしてみんなに配り、歌を歌って祝ってもらいその日を楽しむ。プライベートのお誕生日会には子供にとっても親にとっても一大イベントだ。それがいつまで続くかという、大げさに聞こえるが、死ぬまで続くのである。社会人でも年金生活者でも老人ホームに住んでいても、いつまでも。何故だろう。この習慣に触れた当初は「変なの」と思っていたが今ではしっくりくるようになり、逆に日本の方が不自然に感じてしまうほどである。

ドイツ人の夫に、お誕生日の意味について聞いたところ、こんな答えが返ってきた。「子供の頃から自分の誕生日は特別な日だったけど、特に大人になってからはめったに会えない友人知人らと以前のように話をするきっかけだ。近況報告とともに昔話などもし、その時間は思い出となりいつまでも心に強く強く残る。キリスト教の国なのでイースターやクリスマスなどもとても大切な日だが、お誕生日は個人的なお祝い。自分が大切な人間であると思える事に繋がっている。誕生日を理由に自宅に人を招待したり素敵なレストランでお祝いしたり。その日は自分自身と友人を強く結びつけてくれるものなんだ」と。

20代後半の頃、夫のいとこのお誕生日会によばれた。同年代の彼は地元のホールを会場として借りた。会場まで迷わないように曲がり角にイニシャルを書いた矢印が貼ってあり公共の標識や壁を利用し、準備した紙を貼っていた。何ヶ月も前から会場を予約し準備するなど、まるで小さな結婚式のようなのだ。会場はやたらと広く本人も参加者も自由で、決まりもなく強制もなく話したり踊ったり食べたり。おしゃれな人、奇抜な人、普段着の人、それぞれが気ままに楽しんで、素朴で気取っていない楽しい会だったのを覚えている。

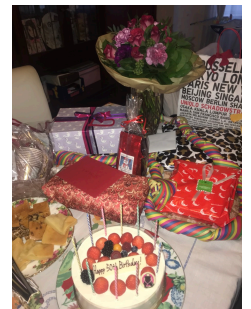
一方でド派手な誕生日会を主催する人もいる。夫の友人の誕生日会はすごかった。1年位前から彼の子供たちと奥さんが念入りに準備をし、本人に内緒でスペインの島に家族と友人を招待したのだ。本人には行き先も知らせず、空港に行かせスペインに向かい、ホテルに着いたら前泊していた友人たちが待ち構えているという手の込んだもの。その驚きぶりはすごかったそうだ。さぞイベント好きな家族なの

ドイツ在住 R.G

だろうが、みんなで楽しめて思い出に残る素敵な経験で羨ましい限りである。またチェス仲間の誕生日会ではプレゼントが海賊の宝箱だった。頃合いを見て運ばれてきた時点で大いに盛り上がり、真っ赤な顔をした友人が拍手の中で箱をあけると沢山の硬貨が入っていて、本人も参加者たちも大変盛り上がった。

一般的に騒音にうるさいと言われるドイツ人だが、誕生日会、といえば状況は変わる。集合住宅に住んでいる人は入り口に張り紙をはる。「某月某日、〇時から家で誕生日会をします。うるさくてご迷惑をおかけするかもしれませんがご理解ください」と。すると当日は音楽ガンガン、大騒ぎが始まってもご近所さんたちは「お誕生日だからね」と優しく受け止めておめでとうの心で見守るのが常である。お互い様だ。お誕生日というのはこういうものだから。

ところで、皆さんは「サービス砂漠」という言葉を聞いたことがあるだろうか。ドイツの劣悪なサービスを揶揄する表現で、そんな言葉を彷彿とさせる経験をしたことがある。ある誕生日にお花の配達プレゼントをもらった事があったが、喜んで開封したところメインの百合の首が折れていてとても残念だった。一方でサービスに期待できないから育った慣習なのではと思うこともある。私が誕生日会で楽しみにしているのはプレゼント開封の時間で、主催者は一つずつ開けて送り主にお礼を言い喜びを分かち合う。それらプレゼントは、中身だけでなくその外見にも送り主の個性が表れている。プレゼントは自分で包装紙もリボンも選び包む。おしゃれなもの、シンプルなもの、何一つ同じものではなくセンスがすごいなと感心することが多い。1回で捨てる



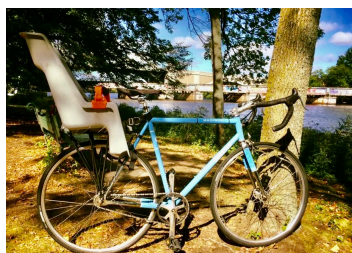
には勿体ないほど素敵な包装紙もある。また環境に配慮と言ってあっさりしすぎる包装などもある。

おそらく誕生日会を開催するドイツ人の多くは真剣に時

間をかけて準備をしている気がする。そこがまた面白いと感じる。人生は自分が主役なんだというのを認識できる日、それがドイツの誕生日だと思う。誕生日は、その人の誕生から始まり人生を終えるまでのドイツ人の素敵な習慣なのだ。

私の夫は、カリフォルニア育ちの夫のエコ人間。結婚当初、数ヶ月ほど日本で暮らしており、一緒にデパ地下に御礼用のお菓子を買いに行けば「包装も袋もいりません」と断り、即座に鞆にしまってしまうので、店員さんが困り果てていたのを覚えている。スーパーで買った野菜や果物も自分の鞆に直接入れて持ち帰る。そんな彼とアメリカに亘り、10年間の子育てを共にしてきた。

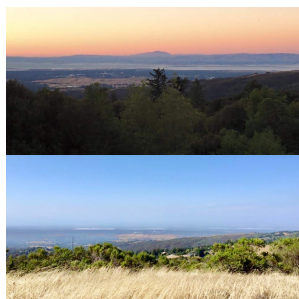
車社会のアメリカでは稀な自転車通勤。マイナス20度を下回る真冬の東海岸で、7マイル(11.2 Km)の距離を凍るチャールズリバーの北風を受けながら、



40分近くかけて通勤をしていた。プリスクールの送り迎え用に競技用バイクに椅子を取り付け、日本仕様のこども乗せ自転車に変えてしまった。「車社会のアメリカでそれが普通と思って欲しくない」と子どもたちに伝えるために。

1年に何度かは彼の育ったカリフォルニアを訪れ、彼のセカンドハウスである「山の家」に滞在した。そこは『オープンスペース』という自然保護区内に位置し、森と空に囲まれたサンフランシスコベイを見下ろす大自然の真ん中にある。ここでは食べ物を土に返し、直接肥料にするという「コンポスト」が原則で、ゴミの収集もほとんど行われていない。少し下るとレッドウッドの大木に囲まれたまた違った景色となり、ウッドを基調とした建物や小さなダウンタウンが見えてくる。私たちが住んでいたボストンよりもずっと早く、プラスチックバッグも廃止されていた。山の暮らしは、自然との共存そのもので、至る所にレッド・イエロー・グリーン of 山火事の危険度を知らせる看板が立っていた。常に山火事と隣り合わせのその生活は、地球温暖化を身近に考えざるを得ない状況にあるのだ。彼が育ったのはそこから30分ほど下った街で、カリフォルニアならではの広い敷地に平家建ての小学校。この地域特有の「バナナスラッグ」という黄色いナメクジを愛し『Dirt Made My Lunch』

という「土から全ての食材を作ってくれてありがとう」という内容の歌を歌い、水不足解消のため、トイレやシャワーなどの使用リミットも決められていたらしい。プールの使用も禁止さ



れ、そこをスケートボード場に変えたことで、ハーフパイプやストリートスケートボードが流行したという歴史もある。

また、アメリカにはUSED文化が浸透しており、子供服やスポーツ用品、おもちゃや育児用品まで、リサイクル用品店がどこにでもあり、良いものを安く買えるので子育て世代には大活躍であった。家においても、新品・綺麗好きな日本人とは正反対。100年以上も前の古いビクトリア調の建物をリニューアルするのが基本で、DIY好きなアメリカ人は、家だけを買って自分でリニューアルするというのもごく普通のことだった。家具も作ったり、リサイクルで見つけてきたり。バックヤードには家庭菜園を作り、フロントヤードには木を植えるなど、常に自然や人に配慮した暮らしを好んでいた。

ある日、ツールドフランスの専属カメラマンをしている友人がSNSに上げたシェアハウスでの写真が、我が家と全く同じで驚いたことがある。「これはフランス人の棚。カットフルーツや野菜が蓋もされず、ラップもかけられずに冷蔵庫に入っている！環境に配慮してのことらしい」と。「うちの旦那と全く一緒なんだけど！」と思わずコメントしてしまった。確かにアメリカでは、野菜がトレイやラップに包まれて売られているということもなかった。前述の過剰包装や日本では人気の個包装なども。



10年後に帰国した日本では、プラスチックバッグが有料化され、皆がマイバッグを持参するようになり、マイボトルのリフィルステーションが増え、ソーラーパネルやLEDの推進、電力会社のエコポイントシステムの取り入れや、電気自動車、ハイブリットカーの促進など、あの頃見ていた景色とはだいぶ変わった。それでも暑すぎる夏を経験し、「REDESIGN・REDUCE・REUSE・REPAIR・RECYCLE・COMPOSTの促進で埋め立てや焼却処分を行わない」という今も続くカリフォルニアの“ゼロ・ウェイスト政策”に習う時が、日本にも来ていると思わざるを得ない。

日本での住まいはゴミの分別が厳しい地域ではあるが、夫は更に、プラスチックから食品トレイ、資源から牛乳パックを分別し、専用の回収BOXを設けたスーパーにせっせと運んでいる。テイクアウトを嫌い、カフェやファストフード店ではストローを断り続けている。こうした彼の生活行動が、今や驚きから日常に変わった。日常こそが「サステナブル」で、環境保全には最も大事とされているものなのだ。

「帰国子女」というレッテル

フレンズスタッフ A.N

日本における「帰国子女」の歴史は古く、戦前にまで遡り、1871年（明治4年）岩倉使節団に参加した女子留學生が最初と言われています。その留學生5人の中の1人が現在5000円札の肖像画になっている元祖・帰国子女、津田梅子です。

時代は流れて1970年代後半から1990年にかけて「帰国子女」という言葉が定着し、私たちの日常に広く認識されるようになりました。その背景には、日本経済の国際化やグローバル化によって、邦人企業の海外への進出に伴い、海外生活する家族帯同の増加があげられます。その後、子どもたちの海外での異文化体験や外国語スキルの習得が重要視される一方で、子どもたち帰国後の日本の教育システムとの乖離や日本社会への適応化が問題視されるようになりました。言葉の壁や文化の違いに戸惑いを感じている子どもたちへの支援が求められるようになり、国内で帰国子女を積極的に受け入れたり、特別な支援プログラムを組み込んだりする学校の増加も「帰国子女」という言葉が広まった要因だと思います。そして現在、約1万人の帰国子女が日本で生活し、「帰国子女」という呼び名に加え、「帰国生」「帰国児童・生徒」と世間一般に浸透して使われています。

我が家の長女は、とある中東の都市で誕生し、幼稚園の年少まで過ごしました。帰国後の初めての日本生活は、4歳児とはいえ環境の変化に少々戸惑っていました。「なんでパパとママが車運転しているの?」「なんでママがアイロンをかけているの?」「なんでお姉さん（お手伝いさん）来ないの?」などなど、素朴な問いかけが沢山ありました。途上国では運転手さんとお手伝いさんがいる環境が日常であり、娘にとってはそれが当たり前だったのです。娘自身、言葉で表現はできな

いけれど、日本での生活は今までとは何か違うと感じていたは



ずです。何かが違うと感じながら娘は園生活に無邪気に飛び込んでいきました。そして無意識にその何かを海外で過ごした経験を特別なこととしてポジティブに捉えて、自己肯定感を高めつつ、日本の環境にすんなりと順応できたのではと思っています。きっと環境の変化を楽しんでいたのでしょう。幼稚園児はまだ社会的経験も少なく、自分と他人の違いをそれほど深くは理解できないお年頃だったのが幸いでした。



その後、長女が中2の時に家族でアフリカのサブサハラ地域へ駐在しました。宗主国がフランスなので公用語はフランス語です。何か楽しそうという期待値を膨らませた他の兄弟に比べて、長女だけが今の楽しい中学校生活をリセットせざるを得ない状況に激しく抵抗しました。両親で海外赴任するとそのまま通い続けることが出来ない学校だったので致し方ありません。長女には涙を飲んでもらい、思春期真っ盛りの彼女にとってはマイナスからのアフリカ生活スタートでした。

赴任した直後は日本の同級生とLINEでの会話時間が唯一の息抜きで、事あるごとに日本に帰ってお友達と会いたいと愚痴をこぼしていました。通学していたアメリカンスクールは6月半ばには終わり、そのタイミングで子どもたちは日本の学校に1カ月間は通えるので、我が家は毎年、夏のバカンスシーズンは必ず日本へ一時帰国をしていました。当然娘は、母校へ聴講生として通い、久しぶりに着る制服に胸おどらせながら束の間のクラスメイトと過ごす学校生活を満喫していました。

しかしクラスメイトに「もう英語はバッチリでしょ?」「いいなあ、英語が話せて…」「フランス語もできるんでしょ?」「いろんな国へ旅行できて羨ましい」と言われるたびに、娘はだんだんそれをプレッシャーに感じるようになったみたいです。もちろんクラスメ

イトは率直な帰国子女あるあるの質問で悪気がないのは百も承知です。

「そんなにすぐには英語なんて出来ないよ。めちゃ大変だよ。1日が30時間あればいいのになって感じ」、

「色々旅行するより日本が1番だし、でも日本は遠すぎるから」、「ストレス軽減じゃないけど、ごはんはフランスの文化が色濃く続いているから美味しいんだよね」と答えていたとか。

今、親として思うことは、「帰国子女だから…」 「帰国子女だから〇〇に違いない」などの世間の思い込みからプレッシャーに感じている子どもたちも少なからず一定数いるのではないのでしょうか？そのプレッシャーを咀嚼すると、周りから高い期待を抱かれる一方で、その期待に応えることができるのかという不安や焦りも同時に伴うからなのではと思っています。

また長女は「こんなに苦労して毎日アメリカンスクールの課題に追われながら、日本の通信教育もやらなくちゃならないなんて理不尽すぎる」とよくぼやいていました。確かにG10（高1）になるとIBの導入段階として一気に勉強量が増えてきます。



ぼやきつつも「このままでは、私は中途半端になってしまうからやらなくちゃ」と、頼って甘えてしまう日本のお友達とは少し距離を置くようになりました。SNSを通してお友達が気を利かせて学園祭や修学旅行などを報告してくれる善意が、その場を一緒に共有できない娘にしては、とてももどかしくて悲しく苦しかったのも一因だったようです。日本というカテゴリーを一旦片隅に置いて、自分が今置かれている環境から自分なりの道標を見つけ出し、娘は一步を踏み出すことができたのではと感じています。

つつがないアフリカ生活が続いていた頃、世界中でコロナが蔓延し、ロックダウン直前に会社の指示で突然日本へ緊急退避を余儀なくされました。退避後、子供たちはアメリカンスクールとオンライン授業が続き

ましたが、オンタイム授業は時差があるのでなかなか大変だった記憶があります。アフリカへ戻る目処が立たなかったのも、結局、長女は高3の6月末に母校へ復学しました。学校の先生やクラスメイトに温かく迎え入れられ、卒業までの半年間、いわゆるJK生活を楽しんだようです。半年間とはいえ最後の高校生活は、アメリカンスクールのカリキュラムとは全く異なるので、日本の高校の授業スタイルに合わせるべく別の意味で苦勞し、「帰国子女が直面するサガ（宿命）だね」とも言っていました。



そんな長女は大学生になり、この春から社会人です。アフリカ生活が大変だったからもう二度と海外へは行かないと言っていた長女は、大学時代にちゃっかりと交換留学も経験し、長期休みはフラッと欧州にいるお友達に会いに行きつつ放浪しています。そして、古巣アフリカも再訪問して、懐かしの場所を巡ったり、駐在中にお世話になったお手伝いさんにも再会したり懐古してきました。

「あの頃は私の黒歴史だったけど、まあ、やっぱり今の私があるのは、アフリカに行ったからかな」と冗談交じりに私たちと会話している今日。これから長女はいったいどんな人生を歩んでいくのか楽しみでもあり、見守っていききたいと思います。



第3回 私立校 ～附属校～

独自の教育方針やカリキュラムを取り入れることのできる私立校。それ故、その理念や特性を理解した学校選びをすることが大切になってきます。数ある私立校から今回は「附属校」に絞ってお伝えします。

帰国生の学校選びのために制作現場からお伝えしたいこと、お伝えできること第3回。今号では1都3県の私立大学附属校についてお知らせします。



私立校の受け入れ



東京都内は高校全体の約半数が私立校、それとあまり変わらない数の私立中学校があります。近隣の県の学校を含めると相当数の学校が帰国生を受け入れています。国立校や公立校とは異なり、受け入れ態勢は学校によりさまざまに日本の教育へのソフトランディングを目的として受け入れる学校はあまりありません。帰国生のみ不足部分を補う時間を設けたり、一般生とともに補習を受ける機会が設けられたりしている学校もあれば、特に補習など設けない学校もあります。総じて英語教育はどの学校も力を入れており、英語の得意な帰国生には特別なクラスが設けられている学校もあります。帰国生の在籍者数も学年で数十名の学校もあれば数名だけの学校もあり、ひとくくりにしてお知らせすることはできません。また、学校案内に掲載されている二百校ほどの学校すべてについてお知らせすることは難しいので、受け入れの傾向と現状を大まかにお伝えしたいと思います。

多くの生徒が親大学に進学する附属校

早慶はじめGMARCHと呼ばれる大学の附属校は卒業生のほぼ全員が親大学に進学します。そのため、基本的に親大学に良い生徒を送り出すための教育を施しています。高3になると大学の講義を受ける機会が設けられ、志望学部が絞られていきます。他大学受験の対策は取っていませんので、他大学進学を希望する場合には別途大学受験向けの学習を進めなければなりません。中学受験の際に大学のことで視野に入れることは難しいのですが、進みたい学部があるのかも含めてよく検討されてください。また、こうした学校のほとんどが編入学を実施しますので希望する場合には入試時に受験、入学時期に合わせてご帰国ください。帰国生としての出願資格である在外年数と帰国後の年数は月日まで細かく定められている学校もあり、当てはまらない場合には資格が与えられません。希望する学校の出願資格は早めにチェックしておきましょう。

中学校で帰国生入試のある学校は、早稲田実業、慶應湘南藤沢、学習院・学習院女子、明治、立教池袋・新座・女学院、中央、法政第二です。試験科目は国・算2科または社・理も加えた4科の日本の学習力を求めます。慶應湘南藤沢だけは英語試験もありますが、やはり国・算は課されます。

高校では、早稲田実業、早稲田高等学院、早稲田本庄高等学院、慶應、慶應女子、慶應湘南藤沢、青山学院、中央、中央杉並、法政第二、法政国際が帰国生入試を実施します。試験科目は国・数・英3科の学校が多く、やはり日本の学習を進める必要があります。慶應湘南藤沢は試験科目に英語がありませんが、英検準1級(TOEFL iBT70、IELTS5.5)以上の証明書提出が求められます。入学後も毎年全員がTOEFLを受験しますので、英語が好きで得意という生徒に合う学校です。一般生の推薦入試に帰国生が出願できる学校もありますが、数検1級や海外での全国大会レベルの実績など特別な能力を評価する学校もあれば、生徒会での活躍を認める学校もあるなど求める生徒像は異なるようです。

法政国際には一般的な普通科とは異なるグローバル探究コースとIB(インターナショナルバカロレア)コースが設置され、試験科目はグローバル探究コースが日本語または英語の作文と数、IBコースは日本語小論文と数です。グローバル探究コースは、1年次で卒業に必要な科目を多く履修し、2年次以降の授業は自由選択、アクティブラーニング型の授業が実施されます。IBコースでも2年次より国際バカロレアディプロマ取得に向けた授業が展開されます。他校とは異なり、法政大学への内部進学のほか、他大学や海外大学へのガイダンスも実施しています。

青山学院には青山学院横浜英和と青山学院浦和ルーテル2校の系属校があり、青山学院横浜英和では中学校で、青山学院浦和ルーテルは中高とも帰国生入試を実施します。青山学院横浜英和では国・算のみのほか+英試験の選択もあります。青山学院浦和ルーテルは一般生同様の試験が課されます。両校とも青山学院大学への内部推薦枠はありますが、卒業生全員ではありません。他大学受験に向けた進路指導も施されています。



他大学受験生 も在籍する附属校

たくさんの附属校を有する日本大学をはじめ、国際基督教大学(ICU)、成蹊大学などの附属校は内部進学する生徒も多数いますが、他大学入試にも力を入れ、対策も施しています。中には内部進学の権利を持ちながら他大学受験ができる学校もあるため、入学後も進路変更をしやすい環境です。

日大系は日本大学、第三、目黒、豊山女子の中高と櫻丘高で受け入れています。日本大学中のみ算・英の帰国生入試がありますが、ほかは一般生同様の入試科目です。日本大学は医歯薬はじめさまざまな学部を有し、系属校は他大学受験対策も施していますのであらゆる進路選択が可能です。国際基督教は持っている英語力での書類審査があるため英語圏出身者に人気がありますが、英語レベルは現地校と日本人学校に分けています。また、国・数・英の試験も実施しており、古典も課されません。高い英語力を有していない場合にも挑戦できる学校です。書類審査の入試では現地校やインター校、日本人学校の先生からいただく書類が必要となりますので早めに依頼してください。成績証明書や調査書は在籍校のレベルも見てください。毎年 100 名程が ICU に進学しますが、海外大学を含めた他大学にも多く進学しています。

成蹊中は国際学級を設置して一般生とは異なるカリキュラムで 1 年間日本の教育に慣れる期間を設けています。入試にはこの国際学級とは別に帰国生枠入試があり、国際学級は国・算・英、帰国生枠は国・算です。高校は現地校、日本人学校とも同問題で国語に古典は含まれません。成蹊大学へは 3 割ほどが進学しますが、内部進学の権利を保持しながら他大学受験が可能です。成城学園も成城大学への推薦権を持ちながら、他大学受験が可能な学校です。中学でのみ受け入れ、国・算 2 科が課されます。入学後は一般生と共に同じ授業を受けます。

近年、理系への進学希望者が増えていることから理系学習に力を入れている学校が多い中、特に工学院、芝浦工大、東京都市大など理系大学の附属校では大学と連携した授業や実験、分析といった授業を多く実施するなどの特色があります。工学院と芝浦工大附属は海外入試を実施、海外生を積極的に受け入れています。工学院の試験は国・算／数・英の 3 科のほか英のみもあり、入学後、インターコースでは理数の授業を英語で行います。工学院大学への内部進学権を持ちながら他大学受験が可能で、海外大学への進学指導も行っています。近年共学になった芝浦工大附属は中学が国・算、高校が国・数・英ですが、

海外入試は算／数 1 科です。芝浦工業大学への進学者が多数を占め、他大学もほぼ理系に進んでいます。ほか、芝浦工大柏中高もありますが、一般生と同じ試験が課されます。柏の芝浦工業大学への進学者は 1 割ほどで他大学受験生が多い学校です。東京都市大学にも共学の等々力と男子のみの付属があります。両校とも中学でのみ受け入れます。等々力は国・算または算・英と日本語作文、付属は国・算のみと、+英または社・理の選択です。他大学、海外大学への進路指導を行っており、他大学進学者が多い学校です。

大妻、共立、白百合ほか多くの女子大学には附属校があり、内部進学枠もあります。ただし、各校ともほとんどの生徒が他大学へと進んでおり、親大学との連携も少なく、附属ではない私立校と変わらない教育が施されています。また、高校では入試募集しない学校が多く、希望する場合には中学校で受験してください。入試科目は多くの学校が国・算または+外国語です。日本女子大附属だけは親大学への進学者数が 7 割ほどと多く、高校でも受け入れを行っています。試験は、中学では国・算、高校では国・数・英となります。

このように試験科目に英語が入る学校でも国、算または数が課される学校が多く、日本の学習準備は必要です。英語のみで受験可能な学校は、工学院、聖学院、女子聖学院、日大豊山女子、文京学院大女子などがあります。英語の書類審査を行っている国際基督教は細かく分かれたレベル別授業により英語力を伸ばすことができますが、他の授業は日本語で行っています。

これらの附属校は編入学を行っている学校も多く、入試時以外にも入学のチャンスがあります。高校入試は実施しなくても編入学を実施する学校もあります。

新たな 附属校

2024 年度より宝仙学園共学部「理数インター」が順天堂大学と系属提携を結び、順天堂大学系属理数インター中高となりました。2026 年度には順天が北里大学の系列校となり、北里大学附属順天中高となる予定です。両大学とも医学部を有しており、教育内容や進学にも変化があるのではないかと予想されます。今後も「帰国生のための学校案内」の取材時に伺ってお伝えしたいと思います。

今回は大学附属ではない私立校、編入学の留意点について紹介します。

大人も参加！子どもと一緒に楽しむ海外での行事

毛筆で漢字に挑戦！ NY 現地校での書道の体験授業

TI

息子が通っていたニューヨークの現地校では、5年生のアートの時間に、書道の体験授業が行われていました。現地の子どもたちに実際に日本の文化を体験してもらいたいと、日本人保護者が中心となり、アートの先生と協力して代々行ってきたイベントです。

45分の授業時間内に、漢字の説明を聞いて、毛筆の使い方の練習し、お清書を仕上げる・・・初めての書道体験としてはなかなかハード内容ですが、みんな興味津々で取り組んでくれました。いつものアートの教室のテーブルに、筆、墨汁、硯が用意され、各自の名前のカタカナ表記が書かれたネームプレートを持って子どもたちが着席します。この日はクラスの日本人生徒と、日本人のお母さんが特別講師を務めます。まずは、漢字、ひらがな、カタカナについて説明。「日本の小学5年生は800字の漢字を読み書きできる」と説明すると、子どもたちはちょっとびっくり。



早速、筆の使い方の練習です。横にまっすぐ、たてにまっすぐ、そして、はね、はらい。みんな初めての毛筆の書き心地を楽しむように、新聞紙に何度も練習していました。清書する漢字は「花」と「星」の2つです。それぞれの漢字の意味、読み方、書き順、を説明したところで、日本人の生徒がみんなの前で、実際に筆を持ってお手本を書きます。一筆一筆丁寧に書き終えると、みんなから拍手

が起きました。さあ、今度はみんなで漢字にチャレンジです。お手本を見ながら、新聞紙に何度も練習したところ



で、すぐに本番。クラス全員が真剣な面持ちで「花」と「星」を真っ白い半紙に書きあげました。最後にネームプレートにある表記を真似て、カタカナで自分の名前を書き込んだら完成です！どの子も、自分の作品を満足そうな表情で眺めているのが印象的でした。

彼らの力作は、学年末に学校で行われるアートフェスティバルで毎年掲示されます。長きにわたって、日本人を多く受け入れてきた現地校ならではの、すてきな文化交流の形だと思いました。



北京でバスツアー

Y.I.

今や大都市となった北京がまだ発展途上だった頃の話です。中国では外国人が家庭教師などの中国人を雇うときには基本的に外国企業服务公司、通称外企を通さなければなりません。住んでいるマンションにとっても熱心に中国語を学び、数年で同時通訳ができるほどになった日本人ママさんがいました。中国熱が高じて外企に中国料理教室開催や外国人には知られていない北京ガイドなどをさせるようになりました。特に小学生の長男は、ママさんがいろいろなところに連れて行ってくれました。

そのママさんが本帰国となった時、「外企にあなたを紹介したから、あとはよろしくね」と。外企の担当者は中国語しか話せません。中国語初心者の方はもちろんお断りしたのですが、すぐに電話が掛かってきたのでした。ほぼ

一方的に外企担当者が話すのを聞いていると、「近くにぶどう狩りができるところがあるので行きましょう」と聞き取ることができました。子どもの同級生ママたちに声を掛け、10組程度で出掛けることになりました。街で売っているのとは異なる美味しい葡萄でご近所にお配りしたこともあり、大評判となりました。また企画して欲しいとの要望で、そこから毎月サクランボやリンゴなどの果物狩りツアーが始まりました。少し遠いところに行くときには餃子ランチを付けて親子の楽しい遠足です。



度重なる外企担当者との電話で中国語もだんだんわかるようになり、杏子を提案された時には「そんなの誰も望まない。メロンがいいな」と交渉。「メロン畑なんてない」と言っていた担当者ですがちゃんと探してきました。近隣のマンションにも声が掛かり、なんとバス8台での大規模ツアーとなりました。しばらくの間、マンション内にはメロンの香りが漂っていました。マンションの子どもたちからも「来月はどこに連れて行ってくれるの?」と聞かれ、果物ツアーができない冬にはスケートツアーや景勝地ツアーなどを企画しました。本帰国の時には中国語検定を取っている外語大出身のママさんに繋がりましたが、畑だったところもあっという間に都市化して果物ツアーはすぐに消滅したようでした。



ハロウィンイベント

Y.H.

日本でも定着しつつあるハロウィンですが、アメリカでも子供達に大人気のイベントです。



日が暮れはじめる
と、仮装した子ども達
が「Trick or Treat!」と
言いながらお菓子を
もらいに近所に出か
ける...のが、アメリカ
式のハロウィンスタ
ートではありません。
殆どの学校では、その
日に限り仮装して登

校することが許され、担任の先生や校長先生はもちろん、事務職員や学校にいる大人も全員仮装して生徒を出迎えるので、実際は朝の登校時間前から子ども達はもうお祭り騒ぎです。授業時間も変更して、校内仮装パレードにゲーム、ダンスパーティ等が催されます。

娘が通っていたエレメンタリースクールでは、毎年、最高学年と PTO (Parent Teacher Organization) が中心となり、お化け屋敷ならぬ「お化け学校」が一晩限りで開校される力の入れようでした。低学年の生徒が下校したあと、校舎はおどろおどろしい実験室や手術室に様変わりし、衣装やメイクを終えそれぞれの役になりきった上級生達は、下級生や保護者を脅かすために息を潜めてスタンバイ！牢屋から出られない囚人に始まり、マッドサイエンティストにドクター、ガイコツに魔女達が待つ長い廊下を、みんな悲鳴を上げながら渡りきらなければなりません。娘は低学年の頃からこの魔女になるために、「卒業するまでこの学校に通う!」と言い切るほど、子ども達に大人気の学校イベントでした。



そして、毎年大成功を収めるこのイベントの縁の下の力持ちは保護者達です。学校の装飾をはじめ、ハロウィンカラーの手作りクッキーにカップケーキ、誰でも楽しめるスライム作りにネイルや占いのブース（もちろん「スライム」研究者や占い師の格好で）、校庭では自家用車のトランクを利用して、「ハロウィンの世界」を見せる出し物までありました。子ども達の笑顔を見るために、保護者もそれぞれの役割を真剣に全力で、そして楽しみながら取り組む姿がとても印象的でした。

娘は念願かなって魔女になれた後、日本への引越しが決まり転校してしまったのですが、毎年10月になると魔女の恰好をして、クラスメイト達と学校で一日中笑い続けたアメリカのハロウィンを今でも懐かしく思い出します。



思い出に残る PTA 活動

K.M.

中国で子どもが通ったインターナショナルスクールでは PTA がたいへん盛んで、日本人、韓国人、中国人、インターナショナルの 4 つコミュニティに分かれて活動していました。毎週金曜日のお昼休み時間にはそれぞれのコミュニティが持ち回りでキオスクを開き、お菓子などを販売します。韓国チームのキオスクがある時は、子どもから「明日はキオスクで辛ラーメンを買うからお弁当は少なくしてね!」と、盛況ぶりが目に浮かびます。インターナショナルチームは、ホームメイドのブラウニーなどが人気のようでした。

インターナショナルデーなどの学校の大きなイベントには、全コミュニティがキオスクを出します。日本チームの定番はたこ焼きの販売です。たこ焼き機 3 台をフル稼働で冷凍のたこ焼きを焼きます。毎回売れ行きがたいへん好調なのでイベントの途中で完売してしまいます。イベントの目玉となる大抽選会もしましたが、準備には少し苦労しました。現地で起業している日本人に掛け合い、スポンサーとして商品提供をお願いしました。学校や組織の枠を越えて、同じ土地でがんばる日本人という繋がりでご協力くださった方々への感謝の念は、海外でしか味わえない貴重な想いとして、時間が経ってもその感動は薄れることはありません。

PTA が企画した中に、日本人には絶対に考えつかない面白いイベントがありました。「Ducttape The Principal」、粘着力の強いダクトテープで校長先生を壁に貼り付ける



チャレンジです。お立ち台はあるものの、校長先生には数時間も壁を背に立ち続けていただきました。全校生徒がテープを貼り終えた時、お立ち台が外

されます。見事に宙に浮いた状態で壁に貼り付けられた女神(校長先生)に、生徒たちはもちろん、先生方、PTA、皆が歓喜の『笑い』に包まれた瞬間でした。

海外での PTA の活動は、言葉や文化のハードル、煩わしさなどで消極的になりがちです。日本ではお仕事やご家庭のことでそのような活動に十分な時間を割けないケースは多いですが、海外でたっぷり時間がある時に子どもたちや学校や保護者たちと関わってみると、今まで経験したことのない感動を経験できると思います。気負わずに、出来ることをすばい精神で取り組んでみると、必ず素晴らしい出会いが待っています。



フリースタイルで美術鑑賞

T.K.

海外の現地校でも美術館や博物館へ遠足で行く機会がありますが、鑑賞するときのマナーが日本ほど厳しくない面をよく見かけます。アムステルダム国立美術館はレンブラントやフェルメールなどの絵画をはじめオランダ最大規模の所蔵なので、観光客はもちろんのこと、小学生から大学生までたくさんの生徒が学校行事の一環で鑑賞しにきています。その時に必ず見かけるのが、床に座り込んで(ほぼ寝そべって?)学芸員の話を書き写したり絵画を写生している光景です。初めて見た時はとても驚きましたが、何度も遭遇すると私たちも慣れてきました。生徒たちが 1 点ずつ時間をかけて熱心に書いている様子を見ると「しっかりしたものを書いて提出して、いい評価がもらえるといいね!」と応援したくなります。



ヨーロッパは芸術の宝庫なので、世界的にも素晴らしい絵画などを身近に鑑賞できる環境にいられたことは、私たち家族にとって貴重な経験になりました。

2024 年度活動報告 (2024/4/1～2025/3/31)

1. 海外赴任に関する相談、問い合わせ

① 電話による相談：15 件 ② メールによる相談：20 件 ③ 面談による相談：8 件

2. 賛助企業依頼による海外赴任前セミナー

① 個別面談 (Web・対面) 35 件 ② 個別相談 (メール) 0 件 ③ 講義 (Web) 1 件

3. 『母親が歩いて見た帰国生のための学校案内 2025—首都圏版 中学・高校編』2024 年 9 月発行

掲載小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・高等専門学校：約 330 校 発行部数 800 部

4. 機関誌『フレンズだより』 82 号 (6 月発行)、83 号 (12 月発行) 各 1500 部

主な配布先：賛助企業、文部科学省、公益財団法人海外子女教育振興財団、海外全日制日本人学校/補習授業校、首都圏の小学校・中学校・高等学校、教育関係機関、諸団体、国内・海外定期購読者、来訪者 他

5. 勉強会

・海外子女教育専門相談員連絡協議会定例会及びWEB相談員連絡会 参加・報告

6. 対外活動

- ・海外子女教育専門相談員連絡協議会にメンバーとして参加
- ・文部科学省「在外教育施設派遣教師研修会」にて講義 (Web)「保護者の期待する日本人学校・補習授業校」
- ・賛助企業依頼による海外赴任前セミナー (主に Web)
- ・寄稿：『海外赴任ガイド』『母たちの海外体験談』他 (株式会社 JCM 発行)、
『月刊グローバル経営』 PLAZA 海外生活 (一般社団法人日本在外企業協会発行)、
『週刊NY生活』『教育なんでも相談室』(ニューヨーク生活プレス社発行)、
『帰国便利帳』(Y's Publishing Co., Inc. 発行) 他
- ・協力：公益財団法人海外子女教育振興財団 帰国生のための学校説明会参加

7. 来訪、お問い合わせ、取材を受けた団体・企業・学校 (順不同)

公益財団法人海外子女教育振興財団、株式会社 JCM、株式会社早稲田アカデミー、
ワイズ・パブリッシング・ジャパン株式会社、株式会社アイウェア (JOBA)、一般社団法人日本在外企業協会、
グローバル化社会の教育研究会 (EGS)、NPO 法人海外安全・危機管理の会、Kempo TV、
BMCN バイリンガル・マルチリンガル子どもネット、ニューヨーク生活プレス社、
OPEN DOOR e-education、認定 NPO 多文化共生センター東京 他

8. 『母親が歩いて見た帰国生のための学校案内 2025』宣伝にご協力いただいた団体・企業 (順不同)

公益財団法人海外子女教育振興財団、プチポア (ベルギー)、タイランドハイパーリンクス、
Mix B (12 都市)、ニューヨーク生活プレス社、株式会社 JCM、Y's Publishing Co., Inc.

2024 年度賛助企業 (順不同)

東京海上日動火災保険株式会社、本田技研工業株式会社、株式会社ブリヂストン、
株式会社 JCM、花王株式会社、日清食品ホールディングス株式会社、日本製鉄株式会社、
株式会社早稲田アカデミー、株式会社リロケーション・インターナショナル、日本たばこ産業株式会社

『母親が歩いて見た帰国生のための学校案内 2025』広告掲載団体・企業・学校 (順不同)

株式会社 早稲田アカデミー、公益財団法人 海外子女教育振興財団、KA INTERNATIONAL 株式会社、
株式会社 日本入試センター (SAPIX)、エフェクトインターナショナルスクール、国際基督教大学高等学校、
昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校、東京都市大学付属中学校・高等学校、富士見丘中学高等学校、
大妻中野中学校・高等学校、海城中学高等学校、サンモールインターナショナルスクール、
湘南白百合学園中学校・高等学校、聖心女子学院中等科・高等科、聖園女学院中学校・高等学校

皆様のご支援に感謝申し上げます

フレンズ掲示板

帰国生のための学校案内 2026

首都圏版



価格 国内:3,740 円(税・送料込)

海外:3,400 円(送料別)



2025 年 10 月 10 日発行 HP にて予約受付中

HP、Amazon、一部の書店でもご購入可能です。

フレンズのインスタです。
フォロー、共有よろしくお願いします。

ID : FRIENDS_KIKOKUSEI_SUPPORT



@FRIENDS_KIKOKUSEI_SUPPORT

スタッフ募集中！

ご希望の曜日に週 1 回、銀座のオフィスと一緒に活動して下さる仲間を募集しています。

活動時間：月～金 10:30～16:30 ご都合に合わせ、在宅ワークと組み合わせての活動も可能です。

【主な活動内容】

- ①年に一度発行「帰国生のための学校案内」制作。学校訪問&訪問記の執筆。
- ②協力企業・団体の依頼によりエピソードや体験談を執筆。
- ③赴任前、帰国後相談(主に Zoom オンラインにて実施)。

* 交通費実費支給

* ③を中心にご協力いただくネットワーク会員も同時募集！(登録制。不定期の活動)



↑↑↑
お申込み、お問い合わせ
はこちらから

編集後記

フレンズは 4 月 1 日より名称を「フレンズ 帰国生 海外赴任サポート」に変更いたしました。弊会は 1983 年、「海外で子育てを経験した母親たち」によって発足し、その想いが引き継がれて今に至ります。今後もその活動方針や内容に変更はありません。新名称は、時代の流れを受ける形での問題提起をきっかけに、対象者と活動内容がよりわかりやすい名称に、という観点からスタッフ全員で半年かけて議論を重ね決定しました。

「フレンズだより」は我々の活動内容を発信する冊子として、海外で子育てするご家庭や帰国生と関わる教育機関の方々に興味を持っていただけるテーマをお届けすることを目指しています。今後も様々な立場の視点や声を届けられるよう努めて参ります。

FRIENDS 帰国生 海外赴任サポート

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-3-16 日動火災・熊本県共同ビル 8 階

TEL 03 (6633) 4096 FAX 03 (3573) 1217 Email:fkikoku@gaea.ocn.ne.jp